

## 解答

- 一
- 問一 ウ  
問二 目にもとまらぬ  
問三 ー イ 2 ア  
問四 エ  
問五 エ  
問六 オ  
問七 エ  
問八 ア  
問九 イ  
問十 声が、裏返った（とき）  
問十一 イ  
問十二 C ア D エ  
問十三 ア  
問十四 ウ  
問十五 （人生では、）困難に直面し、誰も助けてくれないことがあるかもしれないが、たよれるのは自分だけであり、一人で最後までやりきるしかない（ということ。）  
問十六 （風邪ならいいけど、）変声期（だったら大変よ。）  
問十七 早く大人になりたい（という願いを神様はかなえてくれたけれど、それは）歌の練習ができなくなる（ということを意味し、）先生と個人レッスンをしたい（という「ぼく」の気持ちと逆のものだったから。）  
問十八 イ、ウ  
問十九 哲平がミオ先生とのレッスンで様々な経験をして、男の子から大人に成長したこと。
- 二
- 問一 エ  
問二 オ  
問三 ー ア 2 ア
- 三
- ⑦ ① 看破 ② 映「る」 ③ 反「らして」 ④ 野放図 ⑤ こくそう ⑥ うわぜい  
せっぱん

## 解説

- 一
- 問四 本文には、ぼくがミオ先生と出会い、音楽の才能を開花させて、皆の前で歌を披露した様子が描かれているので、選択肢エはあてはまりません。
- 問十一 ー ⑧の前後に着目します。ぼくは声が裏返ったときどうしていいかわからなくなったが、楽譜だけを見て伴奏が続いていた先生の姿から、自分が誰の助けも得られない状況にあることを知ります。練習のときは、すぐに終わってしまう歌を、なぜか長く感じながら、何も考えずに歌いつづけた様子から、もつともふさわしいものは選択肢イであることがわかります。
- 問十五 ぼくは、声が裏返ったことを指摘されたので、先生はやっぱり怒っているんだと絶望しています。しかし先生は、やめずに最後まで歌ったことをすばらしいと褒め、困ったときにたよれるのは自分だけであり、自分一人で最後までやるしかないということを教えたことから、「あのとき、飯島君を」から始まる先生の言葉をふまえてわかりやすく答えます。